

## 第2層生活支援コーディネーターの活動

## 1 生活支援コーディネーターの主な役割

①資源開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に不足するサービスの創出</li> <li>・サービスの担い手の養成</li> <li>・元気な高齢者等が担い手として活動する場の確保 等</li> </ul>
②ネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者間の情報共有</li> <li>・サービス提供主体間の連携の体制作り 等</li> </ul>
③ニーズと取組のマッチング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動のマッチング 等</li> </ul>

## 2 配置体制

	活動区域	配置場所	配置人数
第1層生活支援 コーディネーター	市内全域	市地域包括支援センター	3名
第2層生活支援 コーディネーター	市内12の 各日常生活圏域	各高齢者支援センター (市内12か所に設置)	24名 (各センター2名)

## 3 活動内容

センター名	活動内容
市川・根岸 ミライフル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○民生委員やほのぼの協力員と連携し、介護予防教室へ参加。認知症や介護保険に関する質問や相談に対応した。</li> <li>○介護ベッドを搬入したいが自宅内が片付けられないという相談があった為、不用品やゴミの撤去を行っている障害者施設の紹介を行った。</li> <li>○根岸地区で市包括主催のワークショップを開催した。地域の方々に対するワークショップへの参加の呼びかけを行った。今後は、ワークショップで出た意見を地域での取り組みにつなげていけるように活動していく。</li> </ul>
下長・上長 はくじゅ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域で開催している高齢者サロンや老人クラブ等の通いの場に関して、地域の福祉施設等に講師依頼の調整を行っている。</li> <li>○自費サービスのマッチング (障害者施設で行っているサービス、宅配弁当、自費ヘルパー、福祉タクシー等)</li> </ul>
田面木・館・豊崎 ハピネスやくら	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公民館まつりや地域の集まりに参加し、参加者からの相談に対応している。</li> <li>○地域からの要望に応じて、地域の介護サービス事業所を集まりの会場として調整した。(センター・介護サービス事業所職員も参加し、講話や相談対応等を行った。)</li> </ul>

	<p>○地域での交流機会がない地域の高齢者に対して、地域の集まりの場につなげた。(センター職員も同行する事で、参加する事へのハードルが低くなり、定着につながった。それ以外の活動にも参加する等、社会参加の幅が広がった。)</p>
<p>長者・白山台 ちょうじゃの森</p>	<p>○地域のケアマネジャーや住民から、ごみ出しについての相談を受け、障害福祉事業所や町内会長へ連絡し、支援に向けて調整を行った。</p> <p>○配食サービス・保険外ヘルパー・自費福祉用具の調整などを行った。</p> <p>○休場町内会こども・婦人部より、町内で開催する健康教室で、健康に関する講和の依頼があり、資料を作成して簡単な講話を行った。</p> <p>○ほのぼの協力員研修会・地域福祉懇談会に誘いを受けて参加。グループワークにも参加し地域課題についての意見交換を行った。また、センターの活動内容についての説明依頼があり、チラシを作成し説明を行った。</p>
<p>三八城・根城 みやぎ</p>	<p>○イオンスタイル沼館から地域と連携していきたいとの話があり、9月にイオン薬局で行うイベントにセンターも健康相談会として参加した。R8.1月にも参加予定。</p> <p>○ワークショップや圏域会議に参加してもらった小規模多機能から、地域とのつながりを持ちたいとの話があり、2月から地域向けに「集いの場」を開催予定。</p> <p>○ワークショップで、スーパーが遠いなどの話題もあがっていたため、地区の食料や総菜を売っている酒屋やホームセンター等の許可・協力を得て、店内を写真に撮り、高齢者に対し案内できるよう資料を作成した。</p> <p>○ワークショップの課題を抽出して圏域会議を実施。参加メンバーは、高齢分野以外にも積極的に活動してくれる地域の団体などに声を掛け、ネットワーク作りを行った。</p>
<p>小中野・江陽 アクティブ24</p>	<p>○介護保険サービス以外のサービスの紹介、利用につなぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院同行、掃除や買い物を行う業者紹介</li> <li>・配食サービス、移送サービスを行う業者紹介</li> <li>・身元保証サービスを行う事業所紹介</li> <li>・福祉用具を自費レンタルできる事業所紹介</li> </ul> <p>○江陽地区のサロンの支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センター職員が講師、体操などを行う。</li> </ul> <p>○生活困窮者の支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活保護申請の支援(必要書類準備、申請書類作成支援、通帳記帳等)同行、大家へ受託費証明書記載依頼及び受け取り等</li> <li>・社協のフードバンクの紹介、社協へ同行し、食料品受け取り等を支援</li> </ul>
<p>柏崎・吹上 八戸市医師会</p>	<p>○吹上地区館越町内会での家族介護教室(民生委員宅の敷地内にある離れを活用)は今年度も開催する予定(12月、2月)。この機会を活用し、世代間交流ができないかという話もあるため、町内会と方向性を確認しながら実施に向ける。</p>

	<p>○諏訪三丁目において、住宅公園を借用（ハシモトホームと連携）し、月1回の介護予防教室は継続中。今後町内の保健推進員にバトンタッチできるよう、町内会長と検討中。</p> <p>○昨年度、吹上地区ワークショップを開催した後に圏域会議のテーマとして深掘りしたが、同地区の社会福祉法人から、介護予防教室や高齢者サロン、シニアクラブ活動時における活動場所の提供について快諾いただいたため、吹上地区として有効活用できるよう周知を図るとともに、双方が心地よく場所の提供、会場の使用ができるよう橋渡しする。</p> <p>○柏崎地区のワークショップを圏域会議で掘り下げ、津波・土砂・豪雨災害への備えについて検討。災害時に一時避難場所としてハシモトホーム本社開放、八戸市大久保にある下請け会社（ハウスワン）の解放、今後、モバイル建築住宅を災害時仮設住宅として開放できるか検討中。</p> <p>○今年度は地域の高齢者から草取りの相談が多かったが、一般的な業者だと料金が高いとの声が多かったため、同地区にある就労継続支援B型の事業所に依頼。比較的安価で地域住人の満足度も高く、事業所としても定期的な作業（活動）で収入が得られるとのこと。また、依頼者の年金等を鑑みた金額提示からのインフォームドコンセントであり、苦情等もなかった。</p>
<p>是川・中居林 ミライフル</p>	<p>○11月のワークショップで出た『交流の場に若者が少なく、近所同士のつながりが少ない』という意見に関して、地域ケア会議圏域会議の開催を調整中。民生委員や高齢者サロン運営・参加者などと連携し、地域課題の見直しや今後実現可能な部分について討議予定。</p> <p>○定期的に地域の通いの場に顔を出し、顔つなぎや地域づくりに関する情報の聞き込みを行う。</p> <p>○隔年開催の公民館祭りに出席し、地域健康推進員や地域づくりにかかわる方と交流。</p> <p>○免許返納や交通手段に困っている方々に対して、福祉用具の業者と連携しセニアカーの展示や試乗会の開催を行う。</p>
<p>大館・東 みやぎ</p>	<p>○介護予防教室、サロン、シニア楽々、ひまわりの会（独居老人の集い）などに講師を派遣したり、センター職員が講師を務めている。</p> <p>○桜ヶ丘4丁目在住の高齢者の集い「桜サークル」の立ち上げ支援、活動支援を実施。活動内容の提案や助言を行っている。</p> <p>○相談支援業務で、市が障害者施設に委託しているごみ捨て支援を紹介した。ごみ屋敷の片づけや多量のごみ搬出に協力いただく。また、障害者の就労による雪かきや草取りなどにも対応可能との事で、適宜紹介している。</p>
<p>白銀・湊 えがお</p>	<p>○今年度も住民交流、健康増進、認知症予防、見守りネットワーク構築を目的とし、町内会と連携して「ラジオ体操の集い」を白銀地区2か所、湊地区2か所を地域の方と共同で開催している（今年度は4か所合計で55回開催見込み）</p>

	<p>○地域内の施設のホール、会議室等での介護予防教室、認知症サポーター養成講座等の開催や、施設利用者と地域住民との交流イベントの開催等を施設職員と検討している。</p> <p>○地域住民が交流、イベント、クラブ活動等を気軽に行える「場」を確保するため、地域内介護施設等の空きスペースのPR、施設と地域住民の橋渡しを行う。</p>
白銀南・鮫・南浜 瑞光園	<p>○公益財団法人、短大、職能団体、介護施設の協力を得て、圏域内の中学校を対象に「認知症徘徊 SOS 模擬訓練（認知症サポーター養成講座）」を実施した。</p> <p>○活動を休止していた町内と短大をマッチングし「けっぱレンジャー」による体操教室を開催した。当該町内からは活動の継続を求める声が出ている。</p> <p>○冬期間は活動を休止する老人クラブに対し、公民館を活用しての冬季の活動を提案。ポッチャを購入し、公民館に設置することで誰もが利用できる体制をつくった。</p> <p>○圏域内2か所の公民館まつりに相談ブースを設置し、参加者からの相談に対応した他、健康にかんするスタンプラリーを作成した。</p> <p>○介護予防教室を学校の長期休暇期間にあて、多世代交流会とし中学校にも開催案内を配布した。</p> <p>○地域独自に発行されている広報誌に対し、介護予防教室の内容を寄稿し掲載された。</p>
南郷 なんごう	<p>○ほぼ毎月参加している老人クラブでの交流中に、参加者からの質問や相談に対応している。また、「施設入所のことや介護保険のことが知りたい」という希望があり、今年度介護予防教室で勉強会を開催した。</p> <p>○介護認定を受けていない状況で、緊急で車いすを一時的に借りたいという相談があり、費用や利用時期を聞き取りしながら対応できる事業を紹介した。</p> <p>○退院後体力低下から電動カート利用の相談があり、購入と個人レンタルのメリット・デメリットを説明したうえで、パンフレットと一緒に事業所を紹介した。</p> <p>○独居となった高齢者から入浴についての相談があり、社協での一般住民向けの入浴サービスや老人クラブの参加を紹介したり、身体状況から総合事業サービスを提案した。</p>